

信州から「冬」を追う

# すべてが眠りにつく 信濃の雪景色

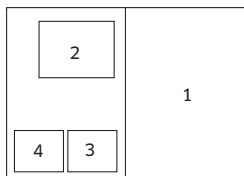


3カ月前、見事な紅葉に彩られていた溪谷は、モノクロの世界へと変貌していた。葉を落とした山肌は黒く、それを積雪が白く塗りつぶしている。季節の移り変わりは驚くほど早い。これから信州の長い冬が始まるのだ。

秋にも訪れた梓川あずまがわは、松本市から上高地へ向かう国道158号沿いを流れている。このエリアは行楽地への玄関口ということもあり、シーズン中はマイカー規制がかかるほど観光客で溢れかえる。そんな秋の賑わいも嘘のように雪に埋もれ、今や対向車線を守る車も少ない。路肩には除雪された雪が50cm程の壁をつくっている。

この日は朝から曇天で、市街地では時々雪が舞っていた。山間部に入るとフロントガラスに当たる雪量が増える。道幅は狭くなり、カーブも多い。スリッパしないよう慎重にハンドルを握り、いくつものトンネルを抜けていく。しばらくすると奈川渡ながわダムの上流にある人造湖・梓湖が見えてきた。

薄氷の張った湖面には昨夜からの雪が積もり、不思議な模様を描いている。動くものもなく、まるで時間が止まっているようだ。思い出したように風が吹き、雪が舞い散る。厳しさの中にもどこか神々しさを感じる光景だ。そういえば、ここからさらに上流にある明神池は冬でも全面凍結しないらしい。北アルプスの総鎮守・穂高神社奥宮が鎮座する神域だからだろうか。美しい銀世界に包まれていると、人知を超えた力に想いを馳せてみたくなる。かじかむ指に息を吐きかけフラインダーを覗く。膨らんだ想像力は雪山に吸い込まれ、沈黙の中、無心でシャッターを切った。



【写真1】梓川に建設された奈川渡ダムによってできた人造湖・梓湖。堤高が155mもあり、日本で3番目に高いアーチダムとして知られている。ダムの上を国道が走っているため絶景が眺められる。【写真2】越後山脈と魚沼丘陵に囲まれた盆地、新潟県六日町で撮影した登川(のぼりがわ)。川面が山並みを写し、山里の冬景色を演出してくれた。【写真3】信濃川の支流、中津川。この辺りは毎年テレビでも取り上げられる豪雪地帯で、上流には奥信濃の秘境と呼ばれる秋山郷がある。源流はスキー場で有名な苗場山だ。【写真4】長野県白馬村で撮影した松川。運良く吹雪が止み、1週間ぶりに北アルプスが顔を覗かせてくれた。青空に浮かぶ雄大な山並みが素晴らしい。

